

西広島リハビリテーション病院 病院機能評価

特集



病院機能評価とは

患者さんや地域住民の方が適切な医療を安心して受けることができるように、中立・公平な専門調査者チームが病院の機能を評価し、一定の水準を満たした病院を「認定病院」とする事業です。公益財団法人 日本医療機能評価機構によって運営されています。

評価を行う項目には「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や、「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」などがあります。

基本的な機能について評価する「**本体審査**」と、より高度な機能について評価する「**高度・専門機能**」があり、当院はリハビリテーションの領域において両方の認定をいただいています。



当院の受審履歴

西広島リハビリテーション病院は、第三者評価を受けて患者さん・ご家族・連携病院の信頼を得ることを目指すとともに、病院内の機能を見直し高めるきっかけとして、病院機能評価を受審してきました。

本体審査 認定履歴

①	1999-5-17	Ver.2.0	長期療養病院
②	2004-6-21	Ver.4.0	療養病院
③	2009-7-3	Ver.5.0	療養病院
④	2013-8-2	3rdG:Ver.1.0	リハビリテーション病院
⑤	2018-10-5	3rdG:Ver.2.0	リハビリテーション病院
NEW ⑥	2024-9-6	3rdG:Ver.3.0	リハビリテーション病院

付加機能 / 高度・専門機能 認定履歴

①	2010-6-4	Ver.1.0	付加機能審査 (リハビリ)
②	2013-8-2	Ver.3.0	付加機能審査 (リハビリ)
③	2018-10-5	Ver.3.0	付加機能審査 (リハビリ)
NEW ④	2024-9-6	Ver.1.0	高度・専門機能 (リハビリ)

受審を終えて

当院は、病院機能の質向上を図る目的で、病院機能評価の受審を行っています。このたび本体審査としては6回目の認定となりますが、非常に良い評価をいただけて、身の引き締まる思いです。

特に評価していただいたポイントとして、当院の継続性があると思います。10年、15年と続けて取り組んできた活動が多く、仕組みとして根付いていて、スタッフがその特徴や課題をしっかりと説明してくれました。

コロナを超えてチーム力 UP !

実は、準備段階では懸念がありました。コロナの感染対策に明け暮れた4年間の影響で、私たちの強みだったコミュニケーションや連携の部分が影を潜めているように感じたのです。そこで、まずは審査が行われる127領域の各項目について、当院がどういう取り組みを行っているのか、どんな特徴があるのかということを説明するスライドを、担当を決めて1枚ずつ作ってもらいました。これは、自分たちの取り組みを基本から改めて見直すこ



▲ 説明スライドの例

とにつながりました (左図)。

受審の際は皆が生き生きとしゃべってたくさんアピールしてくれました。むしろコロナ感染症に対して病棟が一丸となって対応してくれていたこともあって、チーム力がさらに進化したように感じました。

病院機能評価は“総力戦”

医療現場のスタッフだけでなく、それを支えるロジ班のメンバーもしっかりと審査され、良い評価をいただきました。「本体審査 4.6.1 災害時等の危機管理への対応を適切に行っている」など、はじめてS評価を取れた項目もあります。皆が一丸となり総力戦のような審査だったと思います。

スタッフには評価していただいた部分を喜んでもらいつつ、今後も自己研鑽に励んでもらいたいと思います。

病院長 岡本 隆嗣



今回の受審にて、高い評価をいただいた項目（本体審査はS、高度・専門審査はIが、それぞれ最高の評価となります）の一部をピックアップして、当院の取り組みをご紹介します。

★ 本体審査項目 ◆ 高度・専門機能項目

Pick UP!

「かわらなくちゃ！」飽くなき質改善への挑戦

※「かわらなくちゃ！」は当法人の行動指針のスローガンです。

- ★ 1.5.1 業務の質改善に向け継続的に取り組んでいる
- ★ 1.5.2 診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる
- ★ 1.5.3 患者・家族の意見を活用し、医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んでいる



▲ 2023 年度一点深掘り活動発表会の様子 結果発表には審査員のコメントが書かれています ▲



▲ 摂食嚥下支援カンファレンス。各病棟に1つずつチームがあります。 ▲ ご意見箱と各種アンケート

1 一点深掘り活動

2007 年から継続しているTQC 活動。毎年発表会を開催して成果を競うとともに、良い活動は病院全体の取り組みへ展開します。

2 特殊専門カンファレンス

摂食嚥下、高次脳機能 / 認知症、転倒、装具、NEURO、栄養等の専門チームが、日々症例検討を行っています。

3 退院患者統計・部門別年報

毎年データをまとめ、Web サイトやパンフレットで公開したり、分析を行ったりしています。



▲ 歴代の部門別年報

4 ご意見箱と各種アンケート

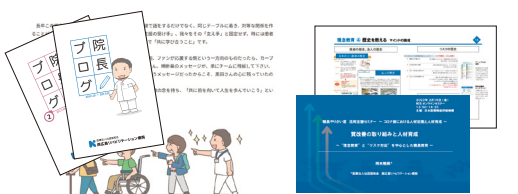
院内8か所に設置したご意見箱と各種アンケート（理事長親展退院アンケート・退院後の電話アンケート・退院3ヵ月後・1年後のアンケート）で患者・家族の意見・要望を吸い上げ、各部署の業務改善に活かします。

Pick UP!

「信じ合い、明日を拓く」理念の共有と浸透

- ★ 4.1.1 理念・基本方針を明確にし、病院運営の基本としている
- ◆ 1.1.1 回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である

※「信じ合い、明日を拓く」は、当法人の基本理念です。



▲ 院長ブログ

▲ 日本医療機能評価機構のセミナーなどで講演



▲ 朝礼・終礼



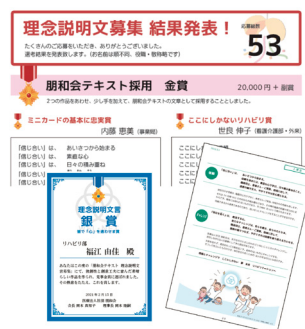
▲ e ラーニングで視聴可能

2 職員へ発信・共有

院長が法人のビジョンをさまざまな形で発信し、職員と共有しています。

3 皆で考える理念

2020 年には、理念を説明するキャッチフレーズを職員から公募する企画を実施。全53作品の中から選ばれた優秀作品を朋和会テキストの説明として採用しました。



▲ 募集の結果と朋和会テキストのページ

1 朋和会テキスト

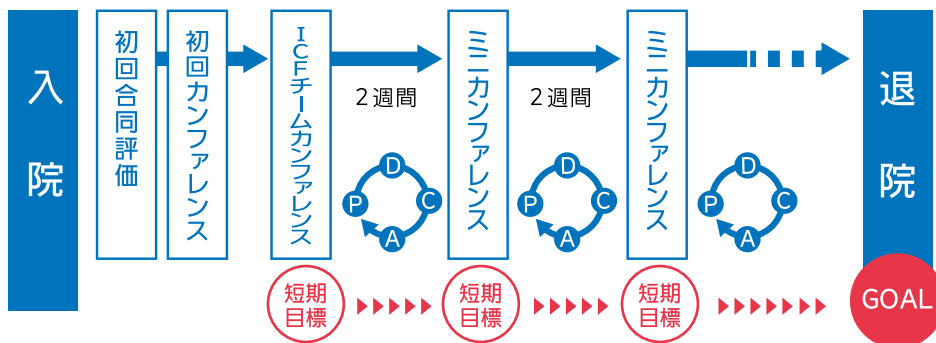
2012 年より理念教育のため「朋和会テキスト」(理念・歴史・リハ・リスク・組織/ルールなど、約100 頁)を作成し、毎年改訂を重ねています。携帯できるタイプのツールとともに、新人研修、理念研修等で活用しています。

Pick UP!

システマティックな多職種協働の仕組み

- ★ 2.1.12 多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている
- ★ 2.2.6 リハビリテーションプログラムを適切に作成している
- ★ 2.2.20 生活機能の向上を目指したケアをチームで実践している
- ◆ 3.1.1 初期評価を適切に行っている
- ◆ 3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している
- ◆ 3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している
- ◆ 3.2.2 リハビリテーションの進捗状況を共有している
- ◆ 3.3.1 定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている

1 当院のリハビリテーションの流れ



▲ 多職種で行う初回合同評価



▲ 予後予測をもとに院内パスコースを設定



▲ ICF チームカンファレンス



▲ 2週間ごとのミニカンファレンス

2 ICF の活用

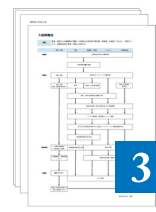
患者の全体像を把握しやすくする目的でICFを導入しており、アプローチの一覧化、ポジティブ項目欄追加など、10年以上改良を重ねながら活用しています。

3 情報共有の仕掛け

独自のデータベースシステムで、多職種情報の集約・動画の活用を行っています。また、2023年にはチームの業務を可視化・標準化する目的で、「多職種マニュアル」を新たに作成しました。



▲ ICF シート



▲ 多職種マニュアル

Pick UP!

充実した退院支援と地域リハビリへの取り組み

- ★ 1.2.1 必要な情報を地域等へわかりやすく発信している
- ★ 1.2.2 地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関係施設等と適切に連携している
- ★ 1.2.3 地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている
- ★ 2.2.22 患者・家族への退院支援を適切に行っている
- ◆ 1.4.1 急性期病院と円滑に連携している
- ◆ 1.4.2 自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している
- ◆ 3.4.1 自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている

1 地域連携活動

脳卒中地域連携の会では、事務局として地域連携パス運用協議の中心的役割を担っています。急性期病院には地域連携室担当者や医療スタッフが訪問し、紹介患者のリハビリ状況を報告するなど、情報交換を行っています。



▲ 令和5年度第2回脳卒中地域連携の会



▲ 紹介患者報告 (見本)

2 地域リハビリ活動

広島県地域リハビリ支援センターの指定を受け、地域住民主体の通いの場や各種講習会へ講師を派遣しています。

院内では、地域住民を対象にリハビリ啓発のための地域リハビリ研修会を開催しています。コロナ禍ではリハビリの情報を冊子にまとめた「ワンポイントアドバイス集」の配布や、ブログ「西リハ情報箱」の立ち上げを行い、情報提供が途切れないよう工夫しました。



▲ 五日市公民館での講演



▲ 令和6年度地域リハビリ研修会



◀ ワンポイントアドバイス集



▲ 西リハ情報箱

その他の高評価項目

- ★ 1.1.3 患者参加の医療
- ★ 1.3.2 医療安全対策
- ★ 2.1.6 転倒防止対策
- ★ 4.3.1 教育・研修
- ★ 3.1.5 } リハビリ機能と
- ★ 1.5.4 } 新たな技術の導入
- ★ 2.2.10 看護介護職の病棟業務
- ★ 2.2.4 適切な入院の決定
- ◆ 1.1.2 人員配置
- ◆ 1.3.1 } データの収集・活用と
- ◆ 1.3.2 } 対策の実施
- ◆ 1.3.3 教育・研修
- ◆ 2.1.4 / 2.2.1 / 2.2.2 / 2.2.4 / 2.3.3 / 2.3.4 職種の専門性

病院機能評価の結果や総評は、公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページからご確認ください。